2003年度秋季大会の報告

日本気象学会2003度秋季大会は，宮城県民会館・勾当台会館（仙台市青葉区国分町３丁目）を会場として2003年10月15日（水）～17日（金）に行われた．参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は653名（一般会員427名，学生会員133名，非会員93名）であった．

２日目午後には，宮城県民会館大ホールおいて山本・正野論文賞が榎本剛会員と寺尾有希夫会員に，堀内賞が井上元会員と松田佳久会員に，奨励賞が高田伸一会員，中山寛会員および渡邊真二会員にそれぞれ授与された．授賞式のあと，山本・正野論文賞及び堀内賞の受賞記念講演が行われた．引き続き同会場において大会シンポジウム「東アジア域における環境変化と気候」が行われた．

一般講演の発表申込み件数は427件で，その内訳は口頭発表が287件，ポスター発表が140件であった．

会期中およびその前日と翌日には，個別のテーマによる研究会や講演会が４件開かれた．

最後に，今大会事務局として大会準備・運営にご尽力頂いた仙台管区気象台，東北大学大学院理学研究科，(財)日本気象協会東北支局をはじめとする東北支部の皆様に深く感謝の意を表します．

2003年11月　講演企画委員会

気象研究ノート第204号「モンスーン研究の最前線」発刊のお知らせ

モンスーン研究の最前線に関するレビュー，参考書．モンスーン研究の歴史とモンスーンの成因の基礎，モンスーンを構成する重要な素過程，そしてモンスーンの予測について記述されている．編集，川村隆一（富山大学理学部），全222頁，10月31日発行．購入申込は日本気象学会事務局宛．

＜目　次＞

はじめに（川村隆一）
第１章　モンスーン概論（村上多喜雄）
第２章　季節内振動とモンスーン（高薮　縁）
第３章　大気陸面相互作用とモンスーン（篠田雅人，森永由紀，安成哲三）
第４章　大気海洋相互作用とモンスーン（川村隆一）
第５章　モンスーンの予測可能性（楠　昌司）
第６章　過去のモンスーンと将来のモンスーン（鬼頭昭雄）
付録表　夏のアジアモンスーン指標（八木勝昌，楠　昌司）

本書は，モンスーンはもちろんの事，気候システムや熱帯気象をこれから学びたい，最新の研究成果を知りたいという方にも必携の参考書である．

「モンスーン」の語源はアラビア語の「季節」であり，アラビア海の船乗り達が呼んでいた一種の航海用語であった．しかし，現在，気象学および関連分野の目覚ましい発展により，古典的モンスーンとは全く異った21世紀の新しい「モンスーン」像が描かれようとしている．本書において，その最前線を体験することで，読者は多様なモンスーン観を臨場感をもって共有できるにちがいない．＜本紙裏表紙より＞

（気象研究ノート編集委員会）